

2025年2月16日発行

事務所 武石地域総合センター内  
TEL:0268-85-2511  
<https://www.s-takeshi.jp>  
印刷 中澤印刷株式会社



## 2025年 初日の出

### 美しい国頂上公園から

今年の元旦は穏やかな朝となり、美しい国頂上公園付近は膝まである雪が積もっていましたが、県外ナンバー車などが数台停まり20人ほどの人が凍てつく寒さの中で日の出を待っていました。

7時をちょっと回ったころ蓼科山のやや左からきれいなご来光を仰ぐことができました。待っていた皆さんからは一斉に歓声が上がり、それぞれ願いを託し合掌していました。

今年が元旦の天気のように穏やかな年でありますように！！



1月15日(水)に、武石保育園で、どんど焼きが行われました。ともしび博物館職員が舞いざりて火を起し、ローソク、たいまつと繋ぎやぐらに火を移すと盛大に燃え上がりました。園児達は、燃え盛る炎を見ながらそれぞれのお願ひ事をしました。



1月12日(日)、小沢根地区で、公民館分館が主催してどんど焼きが行われました。前日みんなで作ったまゆ玉を焼いて一年の息災を祈りました。

お知らせ

Smileマルシェ 開催

3月8日(土) 9:00 ~ 16:00 JA武石駐車場

各種キッチンカーや小物販売など30ブース、ダンス・太鼓など催し物多数  
JAひだまり武石では、住みよ武石をつくる会が蕎麦の販売をします!

主催: Smileマルシェ実行委員会



## 農業経営基盤強化のための「地域計画」とは？

1月16日(木)、武石地域総合センターにおいて「地域計画」説明会が開催され、20人ほどが出席しました。

「地域計画」は、10年後の地域の農業と農地の在り方を考え、具体的に水田や畑を誰が耕作するのか、地域の農業をどんな形にするのかを計画して行こうとするものです。所有者と借り手(担い手)の意向を元に、一筆ごとに10年後の予定耕作者を決めて地図上と台帳で管理し、地域農業の在り方を計画します。

担い手に農地を集約し、農業・農地を守っていききたいとして、農林水産省では今年3月末までに

全国で作成するよう求めており、上田市では2月上旬に地域計画案を市農村推進協議会に諮って3月末まで計画を作成し、公告縦覧していきます。その後は毎年見直しが行われていくことになっています。



守りたい農地がこれからの支援対象になるということで、中山間地域農業直接支払制度などを始め各種の補助制度にも影響があるということです。参加した皆さんは、航空写真の筆ごとに色付けされた地図で地域の農地管理について確認をし、係員と意見交換をしていました。

## ～よいお年を～年末お弁当配布 【赤い羽根共同募金配分事業】



昨年12月18日、上田市社会福祉協議会武石地区センターは、地域の75歳以上の独居高齢者104人の皆様にお弁当を配りました。

この事業は、赤い羽根共同募金の配分金を活用し毎年行っ

ており、お弁当の配布をとおして、ふれあいを深め地域の絆を感じていただくとともに、お元気な様子を確認し、良い年を迎えていただきたいとの思いで実施しているものです。

当日は、地域の民生児童委員さんに協力いただき、独居高齢者の各家庭を訪問し、「よいお年をお迎えください」とお声がけをしながら直接手渡しでお配りしました。高齢者の方からは、「毎年楽しみにしています」などの声が聞かれました。

(社会福祉協議会武石地区センター長 池田隆司)

## 持続可能な武石の暮らしは？

1月25日(土)武石地域総合センターにおいて、長野大学松下ゼミによる「持続可能な武石の暮らしを考える会」が開催されました。

ゼミの2・3年生は、「ぴざらぼ運営」「古民家再生 - 子供の居場所作り」「栗栗深谷の観光」の3つのグループに分かれて、地域住民と協力しながら1年間研究・活動した総括と今後の展望について発表し、住民と意見交換を行いました。

出席者からは、住民の事業への関与の仕方や利用者増への広報の方法、事業継続への資金収支などについて活発に意見が出されました。

若い感性の視点が、武石地域の発展につながることを期待します。



## 古民家再生事業見学会

2軒の古民家活用について希望者の現地見学会と意見交換会が開催されました。

昨年12月15日(日)、武石地域で空き家バンクに登録されている2件について活用希望者の公募が行われ、活用希望者の見学会と所有者や行政担当者との意見交換会が行われました。

当日は県外からの1組を含む8組10名の希望者が参加し、所有者や行政からの説明を受け自分の活用方法について意見を述べていました。

具体的活用についての提案は1月17日(金)に締め切り、プレゼンを行ったのち、所有者の意向をもとに3月中旬に審査して利用者・利用方法が決まるとのことです。



## 70年余の上武石文庫図書館Ⅱ

郷土史家 見玉卓文

上武石の消防器具庫の中には、手押しポンプなど消防器具のほかに、壁際の特注本棚にたくさん古い本が並んでいました。手に取ってみると、「上武石分団文庫」との蔵書印があり、一瞬「消防団の蔵書ッ?」と、びっくりしました。



何冊か手に取ってみると、蔵書印のほかに、右図のように中央に「上武石文庫蔵書」と記し、右に分類(部)、登録番号、分冊の有無(冊)、左に登録年月日、あるいは入手手段を記す登録印判がありました。



これはいわゆる文庫図書館の蔵書で、明治から昭和期の武石地域の文化活動に関わる貴重な資料だと気づき、上武石自治会役員に保存をお願いしたところ、後日、宮原英朋片羽自治会長さんが、蔵書を段ボール箱十数箱に詰めて筆者の家に運んでくれました。

遺されていた図書は450冊ほどあると聞き、一人での整理・調査は困難と思い、長野大学の相川陽一教授に学生の応援をお願いしたところ、教授のゼミの学生の実習として手伝いたいとの許諾が得られ、16名の学生に目録採りを願うと同時に、彼らに自身の学習として上田小県地方の文庫図書館の調査研究をしてもらうこととしまし

た。

江戸時代の村には若衆などの男子青年で構成される集団があり、祭礼や道普請、夜警や消防活動などを行うとともに、青年の社会的訓練の場でもありました。明治維新後、これは大きく変化し、新しい青年組織が生まれ、20年代には学習運動が活発になりました。

『武石村百年の歩み』には、「この頃(明治33年)武石村の青年会が生まれた。当時の青年会は部落内に同志会をつくり、夜学会を開いて知識の向上や風紀の改善などを図った」とあります。しかし、「この指導には校長、村長をはじめ村内の有識者があつた」ともあり、自主的な青年会の運営が行われるのは大正期に入ってからでした。

明治32年、図書館令が私人による図書館設置を認めると、各地に図書館が設立されていきます。長野県は、青年会や同窓会の活動が活発で、これらの会により設立された図書館が多いと言われていますが、特に上田小県地方はその先頭を担っていました。

県下最初の館として明治32年に神科村の金剛寺図書館が設立されると、33年に越戸青年会文庫と塩尻文庫、35年に中塩田文庫、40年に当郷図書館と神川読書会附属文庫が設立されました。そして43年に上武石文庫が設立されます。

明治15年に堀之内の小山真太郎さんの次男として生まれた真夫さんは、明治42年に中塩田尋常高等小学校から、故郷の武石尋常高等小学校に赴任して来ました。真太郎さんは明治27年に『武石沿革史』を著わしており、以前から小山家は文学や歴史などの蔵書数千冊を、「小山文庫」として村人に貸し出をしていましたが、真夫さんは青年たちの学習熱に応え、武石村にも図書館を設立したいと願い、自家の蔵書を提供して上武石文庫を設立したのでした。

文庫図書館は、明治42年建設の「攻玉館」内に設けられ、運営は、41年に片羽・堀之内の青年会「信友会」と、市ノ瀬の青年会「共進会」が合同して「上武石青年会」が成立していたので、青年会に引き継がれました。



「小山文庫之印」の上に「上武石文庫」の蔵書印が押されている



# 武石の 企業訪問

武石で働く  
事業所の紹介



## 北澤土建株式会社

代表取締役 社長 北澤 隆洋さん



**武**石地域を歩くと、工事現場や資材置き場の看板に「北澤土建」の社名をよく見かけます。2019年(令和元)の台風19号災害での復旧工事や武石地域総合センターの建設、最近では旧武石村役場跡地の駐車場・にぎわい広場の施工など身近な所で工事が行われています。創業から今年で92年、地元の総合建設企業(ゼネコン)として私たちの暮らしを支えるインフラ関連の工事や公共施設の建設など、その実績と信頼に業界や地域から高い評価を受けています。



にぎわい広場(手前)と武石地域総合センター(奥)

現在、北澤土建では武石沖の本社と東御支店に事務所を置き、従業員数は30名【営業2名、技術者(企画・設計、施工管理など)13名、技能者(職人さん)10名、総務・管理5名】で、武石地域の方は5名いるそうです。

事業の柱は土木事業と建築事業で、売上比率はおおむね土木が6割、建築が4割とのことです。

また、取引先は官公庁(長野県、上田市、東御市、他)や民間企業(トーエネック、シーテック、メクトロン、他)で、その比率は官公庁が7割、民間企業が3割程度だそうです。

かつて北澤家が武石沖で材木店を営んでいて、1933年(昭和8)に材木店の中に土木部を作り、土木事業を始めたのが北澤土建のルーツとのことです。その後、丸子農商学校(現丸子修学館高校)で土木技術を学び、満州で満鉄の技術者として働いてい

た先々代社長が土木部を引き継ぎ、土木事業の拡大を図りました。1966年(昭和41)に法人化して北澤土建有限会社を設立、昭和45年には北澤土建株式会社となりました。材木店主の代を含めると現社長で4代目となります。

92年続いてきたことについて北澤社長は、「地域の皆さんに支えられ、先代、先々代を含め、先輩方や従業員の皆さんと真面目に良い仕事をしてきた結果だと思っています」、また、「地域の皆さんがあたりまえの生活ができるように、安心・安全を守ることが使命であり、やりがいのある仕事と考えています」と話していました。

土木・建設業界では働き方改革や人手不足が大きな課題となっています。「GPSやドローンを使い、ICT(情報通信技術)を採り入れた工法の活用などで、効率化、省力化を図っていきたい」とこれからの工事現場の姿を話していました。



北澤土建の法被



背中への印

最近、北澤土建の社名が入った法被が見つかりました。古い従業員の方が亡くなった時に出てきたとのことでご家族から連絡があり、会社にも残っていない物なので、提供いただいたとのことです。

年代は不明ですが昭和前半ぐらいかと思われ、背中には破れなどがあって、実際に作業着として使っていた物と思われます。地元で事業をしてきた会社の歴史を物語る貴重な史料となりました。

**北澤土建株式会社**

住所：上田市武石沖471-1  
 電話：0268-85-2039(代)  
 ホームページ：<https://www.kitazawadoken.co.jp>